

(1) 広域的な交通対策について

想定課題

国会等が移転してきた場合、県内外から相当の交通需要が予想されるが、隣接県も含めた広域的な交通ネットワークはどうすべきか。

対応方向

栃木県では、県の総合計画である「とちぎ21世紀プラン」において、新世紀における県土づくりの基本的な方向を示しています。それは「全国や海外を視野に入れた広域交流の中心『国土交流拠点とちぎ』として成長していく」というものです。そして、そのために、地域間の交流と連携を支える県土の基盤（コリドール・ネットワーク）を一層強化・活用していくとしています。この「国土交流拠点」という考え方は、まさに国会等移転における新都市づくりの考え方と合致するものです。

栃木県には、JR東北新幹線、JR宇都宮線、東北縦貫自動車道、国道4号など縦の基幹的な交通軸（センターコリドールに相当する）が既に整備されており、国会等の移転に伴う初期の段階における広域的な交通ネットワークは、概ね現状の交通基盤で対応できると考えます。

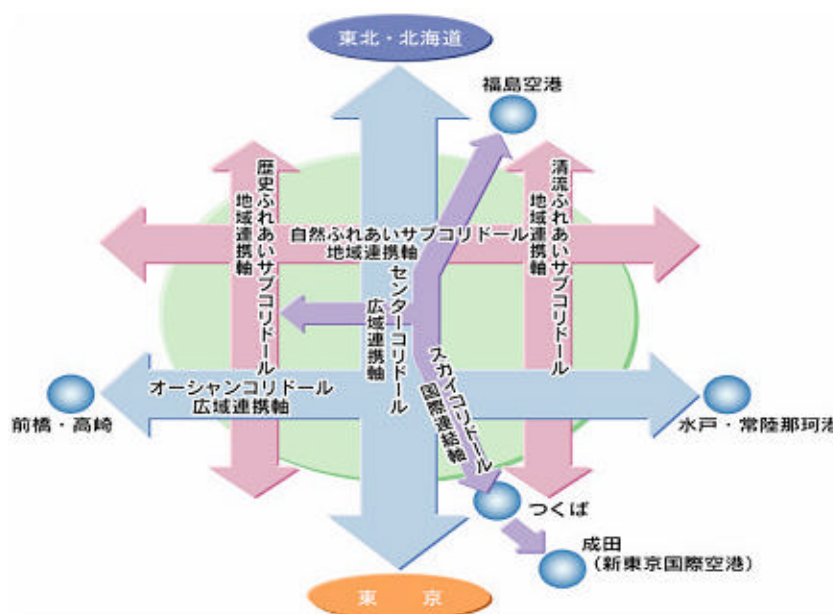
国会等移転の成熟段階における広域的な交通体系については、既存の高速交通網の強化も含め、新都市の規模及びその機能の配置などを踏まえた長期的視野にたった検討を行い、新都市の成長にあわせて段階的に整備していく必要があると考えます。

また、新都市は国際政治都市として世界に開かれた都市となるわけですから、空の玄関口である空港や海の玄関口となる港湾との円滑な連絡を確保することが重要です。国際政治都市としての新都市の主な玄関は福島空港となりますが、広く世界に開かれた都市となっていくためには、成田空港や羽田空港、さらには民間共用化の方向が決定されている百里飛行場へのアクセスを強化する必要があります。また、常陸那珂港、日立港、いわき港あるいは日本海側の新潟港などへのアクセスを強化することも重要です。このため、北関東自動車道の整備促進に加えて、東部広域幹線（清流ふれあいサブコリドール）や北部横断広域幹線（自然ふれあいサブコリドール）などの整備が必要になってくるものと考えます。

「国土交流拠点とちぎ」の概念図



コリドール・ネットワーク



[資料] とちぎ21世紀プラン (栃木県総合計画)